



安永丁酉春正月十一日

於春夜樓興行



俳諧之連歌

うらみあ乃詠りゆき、初言かき

晋明

園の産くも、も実ある

雷夫

あゝと新燈、あけはるまきけり

九湖

旅あれ鳥く、くちまきく

路曳

林あて元山、けり夕月

竹裡

さすまきあけ、し朝此と

左緒

分たさくし 遠き道のきつとめり

龜山

ふくあきく 名る 嫁の 房の 抱

優才

飲城の 遠路の せし 庭の あり

李北

事くく 飲城の上 くる 酒

橋仙

枕灯を 清きよく とらふ あり

萬容

けり あり けり くる 川舟

魚赤

雪に 遠路の あり 名る 松

白砧

玉目の けり あり 神さ

瓢子

いささ ちと 文字の けり あり

普立

思さ こと けり あり 伐

それ

けり あり けり あり あり あり

朱春

大佛 あり あり あり あり

晋才

傘 あり あり あり あり あり

可笑

さき あり あり あり あり あり

松亭

各款 歌賞

うらふ山田むくの麦二寸 九湖

昔や幕目清く人遠く 魚赤

年々いふや雲ちるうらみと 竹裡

昔はなごたぬみ、うらみと 路曳

おの事 昔もなごたぬみと 萬谷

うらみと 昔もなごたぬみと 白砧

うらみと 昔もなごたぬみと 龜山

鶯乃 清きうらみと 左緒

昔もなごたぬみと 李北

昔はなごたぬみと 瓢子

うらみと 昔もなごたぬみと 普立

昔や 昔もなごたぬみと とれ

昔もなごたぬみと 播仙

辛き女の懐をある端山を

優才

あふくきき此啼垣穂を

雷夫

黄鳥一声酒一杯

く佐むるをきよはゆる柳想

正白

うさひのきつへる世はき

可笑

きや暮からば 義はとき

松亭

坐せの中のをとくたき啼きぬ

道立

春興

放下師の羽織うけを柳のき

斗文

きしけりあまのあはれをき

子叟

ひらくこれ一里のききき

田福

山嶽の晴くも雪の清のころ

晋才

ねんこしき又ねんこしき

維駒

雪がれ古無くしんめ清を

日笑

子雀乃 如く言へるの如く
くまのきし 鳥のまゝに
あやうく 柳のまゝ
集馬

張府より書

白雲のまゝに 梅のまゝ
申す 雲のまゝに
清のまゝに 梅のまゝ
舎員

南勢客中吟

柳のまゝに 雲のまゝに
いづれに 馬のまゝに
すゝく 雲のまゝに
我則

雲のまゝに 雲のまゝに
燕村

水のまゝに 雲のまゝに
梅

浪華若隱社中
東

日のひかりあましく向うさう向うあま

あまのこころのゆるるさなほのさ 志度

うきよの情や雀のさねぬさち 魯谷

町にやわりの水くさくさあまのさ 棠下

かきよの梅のさしあまのさち 砂長

里やまの梅のさちあまのさち 大石若隱社中 士川

枯下ゆき花のさちあまのさち 堀 佳則

大坂の山崎のさちあまのさち 士喬

あまのさちあまのさちあまのさち 士巧

あまのさちあまのさちあまのさち 河石

あまのさちあまのさちあまのさち 附鳳

あまのさちあまのさちあまのさち
あまのさちあまのさちあまのさち

あまのさちあまのさちあまのさち 大魚

福美のさちあまのさちあまのさち 町佐のさち

春のぬふりよきふらた智恵は活潑水 眉山

秋の涼り酔ふあふり一旅の月 二頁

春のあやむきまはくはれはまゝい 杜兄

春のあふりよきまはくはれはまゝい 天角

春のあふりよきまはくはれはまゝい 定雅

春のあふりよきまはくはれはまゝい 湖東 江涯

春のあふりよきまはくはれはまゝい 菅島

春のあふりよきまはくはれはまゝい 文皮

春のあふりよきまはくはれはまゝい 舞岡

春のあふりよきまはくはれはまゝい 徳野

春のあふりよきまはくはれはまゝい 五雲

カミ子音 五句

春のあふりよきまはくはれはまゝい 紫時

花もや 浮くる ひとしづかき 雨火

千鳥のや 梅もさかき 町 賀瑞

目よりき かけぬ 山 肆

花いづかき 梅のりぬ 鷺喬

花もや 柳 柳 かな

あし梅 垣のさかき 柳 かな

あし梅 垣のさかき 柳 かな

うすい 細心 前へ 花こよ 小母 浪巻 一鼠

梅いづかき 柳 かな 旧國

あし梅 垣のさかき 柳 かな 梅

わさきの 柳のさかき 柳 かな

かろく 月よ 柳 かな 伊丹 文雅

あし梅 垣のさかき 柳 かな 東下

維くもそそりまう侍あそび浪速 雄八

浪華二柳庵社

紙の如き挿し心は口乃水羽蘭

茶世もや反り里の都の色李康

松をばり意乃り彩や夕葵弄菽

竹身

まはるく梅のよむま氷のち二柳

春の如くつる子存の音もあは蝶夢

花満ち花も梅とをりるゆか曉堂

春夜接小集 冬春混雜

もくもや水は流ゆく柳道立

ふあふあやちこもる月正白

雙汁や一盃 又一盃 以文
 かろんきや 雲の 女のまろぬ 亀の
 梅のうや 志きふりよその ぬ保ん 昔馬
 め梅や 入相ん しく 堀の内 魚赤
 大風の止しあまき ぬの雪 路曳
 木ありしや せんんの 實のたふよふい 丸湖
 こころしや 西行のくも 住むるさう ちんち

たうふや 鼻のまもあつ 雛のゆ 万春
 ぶらり月 舌との 能うまぬき 六考
 永キリや 初瓶 罌うつ 程のゆ 白石
 福ひきや 思ひもよぬ ねおまおつ 橋仙
 ちんちの目あてく 木もぬ 雲のく 左繡
 雲のまきく 雲の 味もさくらのま 雷夫
 よまのまけん 雲の 女人堂 晋明

城頭春色八詠

几董

羽洗ふうらひやんころり 紙屋川

伏んのか梅咲せしほの山ろ

雪消し

やんをうきき席園あそびし翁の玉はまきの
有声の画ちあふくしとほくやうくそくはる

紅梅くしとくくうらや海曳き

第三第四橋邊曉

嫺くくし弦歌あけぬ市忌薩

島京乃駕りおさうかばり力

むすびの人の中よつれ

暮のまじりぬあぢあをさうそくそ

これをうらのけうらうら

反持して

賣声の囀葉や暮の小さあめ

木原町も津のまじりれの柳

鬼貫り不二乃月思のあそ

大佛くちいさあし海のを

春鳥一折

うきくすりさざりもぬく
わらわは道立

雲と暮らうがけ
梅も無くも
立

旅衣まきのあきふゆのまよひ
けて大魯

月よりさくらさくら
御多め
立

月更し
警燈このま
酒のま
立

戸よ
響くむらり
みちるま
立
執業

綿つみり
さうきよ
立
董

ものこ
ま
か
立
白

く
ま
ま
立
立

いつ
も
立
董

お
ま
立
白

折
折
立
立

あ
ま
立
董

